

共生社会推進タウンミーティング 2022 概要

◇日時・場所

〈丹南〉:8/27(土)アイアイ鯖江 多目的ホール

〈嶺南〉:8/28(日)パレア若狭 研修室 A・B

〈奥越〉:9/ 3(土)多田記念大野有終会館(結とびあ) 305・306 会議室

〈福井〉:9/ 3(日)福井県生活学習館 多目的ホール

参加者総数:181 名

≪主な意見≫

〔丹南〕

- 民間施設のバリアフリー化を進めるにあたり、施設改修やエレベーターの設置等に対する金銭的な支援をすべき。学校のバリアフリー化も最優先で進めていくべき。
- 県立病院に手話通訳者を職員として設置してほしい。
- ろう者がコロナ感染した場合、遠隔手話通訳サービスを利用するが、高齢者の場合はスマートフォンを持っていない方が多いため、病院にタブレット端末を設置して、遠隔手話通訳サービスが利用できるようにしてほしい。
- ろう者がコロナに感染した場合に、保健所等とのやり取りが必要だが、高齢者の場合はスマートフォンなどを持っておらず、FAX でしか連絡が取れないため、FAX での対応もしてほしい。また、メールやファックスでのやり取りの際、受け取ったという返事がないと、相手にちゃんと届いているかどうかわからず不安なので、必ず返事をいただきたい。
- ろう者は、テレビ電話でのやり取りが中心なため、団地や県営・市営住宅への Wi-Fi の整備をお願いしたい。
- ハートフルパーキングは、締結を結んだ民間企業や公共施設が管理することになっているが、管理できていない現状があるので、しっかり調査してほしい。
- 出前講座について、県の職員だけが行く形ではなく、当事者も交えた上で普及啓発をしていくべき。
- 学校やスポーツ、みんなが当たり前に行くような場所を、バリアフリーなどの投資によって、当たり前に見えるようにしていくことが大事だと思う。
- 合理的配慮を民間事業者にも義務化していくという中で、物理的なバリアフリーがクリアできなかったとしても、合理的配慮の提供などによってみんなが使えるということが前提という視点に立つ計画であってほしい。
- この場に出られない人やこの場を知らない施設の方、在宅の方などの声を組み込む策を考えていただきたい。

- バリアフリー対応の物件を探すのが大変、公営住宅等を基本的に全室バリアフリーにできないか。
- 新幹線が開業すると、車いす利用者が団体で来られることもあると思うので、複数の車いす利用者が乗れるノンステップバスの導入があるとよい。
- 先日の大雨等の際、2階に避難することは難しいし、避難所へ行くにも時間がかかるので、予測できる災害の場合は、早めに避難所を開設していただきたい。また、避難所の入り口付近にスペースを確保し、ヘルパーを配置するなど、合理的配慮をお願いしたい。
- 車いす用駐車場の数が少ない施設がある。また、駐車場に屋根があるとありがたい。
- 医療的ケア児を福井市内の特別支援学校に1時間かけて毎日送迎している。市のバスに看護師を配置してくださると、それが週に1回でも、本当に助かる。地域の小学校に看護師を配置してくれることを一番希望している。

〔嶺南〕

- 災害対策が求められる。災害が起こった時どうするのか。災害パンフレットをちゃんと配ってほしい。
- 嶺南の地域で、障がい者の方が集まって話し合いできる場を作って欲しい。
- トラブルが起こった時などちゃんと情報を伝えてほしい。
- スーパーや病院に行くと車いす駐車場がいっぱいで、停めている方の中に高齢者の元気な方や若い方がいる。もっと障がい者への理解を深めてほしい。
- スポーツ大会や福祉大会で、嶺南の方を福井市に少しでもつれて行ってあげたいが、なかなか難しい（社協は車のみ貸してくれる。京福バスは車いす数台乗せれるようなものがない。金銭面もつらい）ので、移動手段の確保について県からも何かしてほしい。
- 施設に入りたいが、20歳以上になると今の施設に入れない。施設を作るときは地域で協力できるような体制にしてほしい。県でそのような施設を立ててほしい。
- 既存のハートフルパーキングがルールを守っているか県として確認してほしい。
- 発達障がいの子供をもつ親は不安がたくさんあるので、安心できるように相談や話す場所があるとよい。
- 当事者の意見をいう場所を作ってほしい。タウンミーティングをこれからも続けてほしい。17市町それぞれもタウンミーティングみたいなものをしてほしい。

- 差別解消法の改正による相談が増えることについて、市町の相談員との連携が必要。
- 当事者としての意見を言える、当事者目線の意見交換が必要。
- ノンステップバス等のドライバーが介助の仕方などわからない方が多い。事業者に対しての周知、研修の強化をしてほしい。
- 嶺南にろう学校がないので、福井市に何時間もかけて行っている。嶺南と嶺北の教育の格差を感じているが、今回の災害で物理的な格差も感じた。
- 子供が聴覚障がいと発達障がいで、保育園に通わせているが、なかなか保育園だけでの対応は難しい。嶺南の保育園に県から働きかけられないか。
- 難聴や聴覚障がいへの教育を強化してほしい。
- 知事の発言で、福井県はふく育県を目指すと行ってきてうれしい。障がい児の保護者の負担は大きいので、負担軽減できるような施策をしてほしい。
- 県の事業は福井市が多い。障がい者同士の交流が減ってきている。県の方から応援してほしい。障がい者の交流が多くする行事を増やしてほしい。嶺南には交流する場は少ない。
- このようなミーティングに各市町の方も呼んでほしい。
- 障がいを持つこどもの保護者の負担が大きい。家も学校も嶺北に固まっており、送迎等にお金も労力もかかる。教育を嶺南で受けたい。
- 医療的ケア児が通う支援学校の通学バスに乗れない場合がある。医療的ケア児が通学できるような支援をしてほしい。
- 障がいを持つ家族への支援もお願いしたい。

〔奥越〕

- てんかんの専門的な治療機関が福井県にはない。てんかんという精神病の1つについても、具体的に県で取り上げて、治療機関の相談窓口を作るなど、施策としてお願いしたい。
- 嚥下障害の方への配慮をお願いしたい。嚥下摂食障害の方は、外出先で普通に食事することが難しく、周りの理解がない場合が多い。飲食店への嚥下食提供可能店のステッカー表示や、嚥下食に必要な器具の貸し出し、とろみ自動販売機の設置などをお願いしたい。
- 福祉人材の募集をしてもなかなか集まらない。将来的な人材確保につながるよう、小中学校・高校等との交流などを通じて、魅力の発信や交流の促進を進めてほしい。

- 学校教育において障がいのある方に対する理解を深めてもらうために、施設見学なども大事だと思うが、県独自の副教材を作るなど、できる範囲で構わないので、一般の授業の中に組み入れてほしい。
- 第7次計画の中で、コロナ対策についても触れるべき。精神障がいのある方も、持病を持っている方と同じ。
- 事業者からの声を聴くだけでなく、現場へ行って、生の利用者の声を聴いてほしい。
- 計画の策定にあたり、当事者団体の声もしっかり聴いて、取り入れてほしいし、第7次計画にもそのようなことを位置付けてほしい。
- 強度行動障害の方本人が望むようなグループホームが奥越圏内ではなく、今後の受け入れ先についても不安がある。地域で生活できる場の確保のため、人材育成や受け入れ事業所の拡大をぜひお願いしたい。
- 市町と連携した引きこもりへの支援強化として、情報を集めるだけで終わらないように、それに対する対策を、総合福祉相談所などいろいろな関係機関と連携して実施してほしい。
- 市町が一番身近で大切な役割を担っていると思う。よりそう支援、現役世代を長くしていく、支えあうということで、支える人も支えられる人も全員参加で共生社会を作っていくことが重要だと思うが、県がやること、市町がやること、ということではなく、住民の意見を直接聞く機会に、地域の市町の人も引き込んで、これからも実施してほしい。このような機会をどんどん開いてほしい。

〔福井〕

- 新生児スクリーニングを今後も引き続き受けられるよう充実をお願いしたい。教育と医療と療育の連携をして、早期に聴覚障害児への教育が行えるよう、お願いしたい。
- 聴覚障がい者にとっては、アクリル板やマスクで表情や口元が見えず分かりづらいため、地域の学校でも透明マスクを使用してもらえるようになるとありがたい。
- 人工内耳の購入補助制度は坂井市のみ（上限20万）、市町に要望しているがなかなか難しいので、県からの助成制度の検討もお願いしたい。
- 地域の小学校に通う娘がいるが、35人1クラスで学習しているため、理解できないことも多く、落ち着いて学習できない。2クラスに分けるなど、柔軟に対応してほしい。

- 県・市の職員での目標雇用率、先天的障害を持っている方の雇用率を教えてください。離職率を下げるためのサポートもお願いしたい。
- 特別支援学校に行った子の就職では、学校が就職先を紹介して決まることが多いが、企業とのマッチングがとても重要。民間の福祉相談員と学校が連携する仕組みを作ることに助成する、定期的なカンファレンスを福祉と学校と家庭が連携して行うなどできないか。
- もうすぐ 42 歳になる知的障がい者の親。家庭の中だけで生きているという社会があることを分かってほしい。
- 障がい別に分けて実施してもらえると、話しやすい。
- 必要な時に必要な支援を受けられ、下から上に支える力・制度があって、人となり、人らしく生きられる、それが共生社会だと思う。障がいの有無によって分け隔てられることなく、という言葉自体に差別と偏見を感じる。
- 本人の声が伝わらないと、利用者は利用されているに過ぎないのが、現在の就労支援・自立支援の在り方。外へ出て傷ついたり落ち込んだりして、外に出られなくなる人もいる。
- ヘルプマークを付けているが、声をかけてくれたのは障がいのある方だった。制度は立派だが空回りしている。
- 市町や行政機関（社協）の方も参加していただいているが、県庁内の担当課に報告するだけでなく、教育委員会等の職員にも出席させて、障がい当事者の生の声を直接聞いてもらうべき。
- こども療育センターや特別教育支援センター、特別支援学校の連携を密にして、学校に対する基礎的な支援をお願いしたい。
- 三国あわら市側に、医療的ケア児も含めた特別支援学校を建設してほしい。
- 放課後デイサービスが足りない地域があるため、公的なお金でもって建設してほしい。
- 事業所の療育者の専門性を高める仕組みを作ってほしい。
- 親が高齢になり、亡くなったあとのことを考えて、障害種別や年齢を超えたグループホーム・デイサービスの建設をお願いしたい。
- 各市町に最低 1 か所は、医療的ケア児が通える放課後デイがほしい。
- 重身児の放課後デイ、未就学児の児童発達支援の受け入れ時間が短く、フルタイムで働くには難しいため、朝 7 時から夜 7 時まで、また土曜日に預かってほしい。
- 医療的ケア児が通う支援学校の通学バスに乗れない場合がある。医療的ケア児が通学できるような支援をしてほしい。

- 医療的ケア児が通える園について情報がないため、なるべく家の近くの幼稚園やこども園に通えるよう、県や市町が積極的に情報提供を行ったり調整をお願いしたい。
- 医療的ケア児は通学バスに乗車できず親が送迎しなければならないため、通学バスへの看護師の設置や、移動支援の福祉サービスを通学通園も対象にしてほしい。
- 児童発達支援の施設や放課後デイの事業所において、入浴サービスを利用できるようにしてほしい。
- ショートステイ先が少ないため、親に何かがあっても子供を見てもらえる場所が家の近くに欲しい。また、経鼻胃管が入っていてもお泊りで扱ってもらえるようにしてほしい。
- サービス施設一覧に、医ケア対応有無についても記載してほしい。
- より多くの施設にユニバーサルシートを設置してほしい。
- 障害が重くなってきたことに対する上司や周りの者に理解してもらえないと感じた。職員の意識が変わるよう、研修や学習会を積極的に実施し、受け入れ態勢を整えていただきたい。
- 特例子会社は1つくらいしかないため、増やす努力をお願いしたい。
- 親亡き後のことは発達障がい親の中でも問題になっている。県としてガイドラインの作成を検討してほしい。
- 知的障がい者がこれから65歳以上になっていく。親と子が共生できる施設・グループホームなどの設置を検討してほしい。
- A型事業所で、給料・社会保険を払うだけの仕事を受注できるかどうか。パンやお菓子を作っているところがいくつもあり、競合している。だんだん経営が成り立たなくなり、事業所は、B型やほかの事業所に移ってくださいとお願いしている。事業所をやめる、人数が減っているA型事業所に対して、県としてアドバイスを強くしていかないといけない。
- 小中学校の勉強の中で、手話の勉強が含まれていないので、手話の学科もできるだけ進めてほしい。そうすれば、聞こえない子供が地域の学校に通える。教育委員会の方にもお願いしたい。
- 教育関係の方の出席のほか、労働局の方の出席や、人権擁護委員会の方の出席も求めている。

〔アンケートより〕

- 外国籍の子供たちの障がいも多くなっているのので、通訳できる人を増やしてほしい。施設側にも翻訳機をおねがいしたい。
- サービスを利用するための計画を作る相談支援員が少ない。人材育成のための支援策の検討をおねがいしたい。また、相談支援員の処遇改善が必要。
- 外国人の障がい者の方の対策を、今から考えるべきではないか。
- 入口の近くでなくてもいいので、広い駐車場があるといい。バギーを降ろしたり、障害児を降ろすときに、通常の広さだと辛いところがある。
- 知的や自閉・情緒に配慮したクラスがあるように、難聴学級(又は、ことばの学級)あることが当たり前になりつつある昨今、この福井県でも難聴学級の設立を是非ご検討いただきたい。
- 障がい者スポーツ等を、小・中学校の授業で取り入れる（授業時間が足りない場合、PTA 行事等で取り入れてもらう等）などできるといい。
- 学校を卒業してからの余暇活動の場所を増やしてほしい。（スポーツ教室やダンス教室など）
- 障がいに対しての理解が不足していると思う。広報・周知や教育などの強化をしてもらいたい。（障がい医当事者団体との連携も含め）
- 避難所になっている全場所にスロープの設置をお願いしたい。
- 福井県、特に奥越に関して、介護タクシー（支援者付、ボランティア付）などが、とても少なく感じる。何日も前から日付を設定し、予約もとりにづらい状況。今ある介護タクシーは病院へ定期的に行かれる方が使うのがメインとなっている。今はコロナ禍で外出は自由にできないこともあるが、将来に向けて考えて頂きたい。
- （ひきこもりも含め）精神障害等が増えていることを考えると、今後さらに家族の高齢化（8050 問題）や自ら閉ざそうとする傾向が進むと考える。子供の見守り隊のように地域全体で考えて取り組むことがあると理想。
- コロナに関する福井県のリーフレットは、はぴりゅうの絵などで情報が分かりやすく子供にも分かりやすい。共生社会条例等についてもイラストメインで子供でもわかるようなリーフレット作りを希望する。
- 障害者差別や人権侵害の相談窓口の充実をお願いしたい。たらい回し（担当部署ではない、市か県か…）がおこらないよう、わかりやすい窓口づくりと当事者相談員の配置、人材育成を本気でやってほしい。